

ふるさとの

かたりべ

第六集



発行 嘉瀬ふるさとを探る会



人間性高揚



大橋 忠 勝 金木町長

『ふるさとのかたりべ』第六集発刊に当り、先ずは衷心より御慶び申し上げます。

第一集、第五集の『かたりべ』を拝読するに、この郷土の歴史、文化、自然の真実を掘り起して来られた御功績は、計り知れぬものがあり、『嘉瀬ふるさとを探索会』会員諸氏に対し、深甚なる敬意と謝意を表するものであります。

わが金木町には、本紙が示している如く、名所、旧跡や文化財、観光資料源が、幸いにも非常に多く、私達は、これらの保護、発展を期す重責を担っているわけでありませう。

加えて近年太宰治や、吉幾三など、著名人が輩出し、その古里として飛躍すべく、町を挙げて知恵を絞り、努力を傾注しなければならぬ時となりました。いっそう多くの土産物の開発、ホテルの誘致、環境の整備等受け容れ態勢の充実が急がれます。

思えば宇宙ができて百五十億年、地球ができて四十六億年、古生人類アウストラピテクスが登

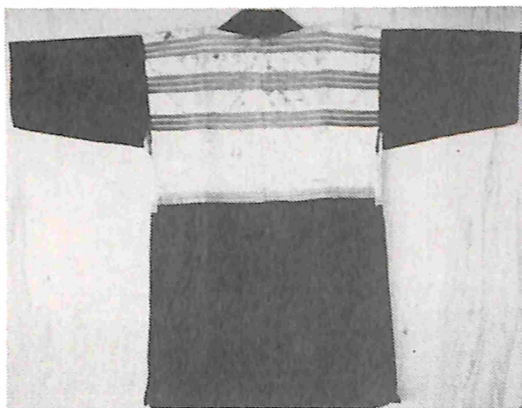
生してから百万年、その長い長い歴史の中で、エジプトやメソポタミアに文明が発生して未だ五千五百年にしかならない。即ち地球ができてから丁度一年過つたとすれば、文明が発生してから、未だ三七秒しか過っていない勘定になります。

しかるに、物質文明については、今やあんな重いもの（飛行機）が、天空を自在に飛び、ソロバンで一年もかかる計算を一秒でする（コンピュータ）までに進歩を遂げたのであります。一方人間は、精神面でどれ程進歩したのか。あらゆる場の中で、ほとんどのわれわれは、只単に私利私欲のみ希求して人生を送ってはいないか。古代人類の頃から、われわれの精神文明は一向に進歩していないと述べては、言い過ぎであらうか。

二十一世紀は、物質文明が無事故で開発し続ける為にも、人間性高揚の世紀でありたい。『かたりべ』がふるさとの歴史を綴るその道程で、私達には誤りなき指針を与えられることを願いつつ…。

表紙解説

「三縞こぎん」



(秋元光子所蔵)

三縞こぎんは、今から二百年以上前に農民の作業着でした。藩政の厳しい掟によって、農民の衣食住は抑圧され、苦しい生活の中の知恵がもたらしたすばらしい遺産である。

津軽こぎん刺しには、西こぎん、東こぎん、三縞こぎんの三種類があつて、中津軽郡西目屋村を中心として、弘前市、岩木町、相馬村の近辺のこぎんは西こぎんといわれます。

東こぎんは、南津軽郡平賀町を中心に黒石付近で刺されたこぎんです。

三縞こぎんは、北津軽郡金木町を中心として作られたもので、嘉瀬以外の地区では、ほとんど残っていません。金木地方は、昔から気候風土の条件が悪く冷害凶作が多いため、生活に余裕がなく、こぎん刺しの発展もなかったといわれます。そのため蒐集家でも持っていないという貴重な作品で、嘉瀬地区に、拾数枚所蔵されています。

三縞こぎんは、その名のように肩から胸、肩から背と前後身頃に、それぞれ三本の大胆な縞が入っています。

三本縞の入っているのが、男性用で、女性用は、四、五本入っている場合もあります。また縦縞のすばらしい文様もあると聞きます。この作品は、昔の農民が日常着として、常時着用した様子が、両肩の文様のきえうせたことからのしはれます。

刺し糸が切れたところには、刺し糸と同じ糸で、縦横に二重刺しを、ほどこしてあります。

太い三本縞は、刺しこと呼ぶ基礎模様で藍色の部分に藍糸で、細く白い縞で刺されています。文様は前後身頃とも縞と縞の間にある模様はそれぞれ異なり、前身頃の左右もまた異なっています。そのなかで大胆な流れ模様は、左身頃、右身頃とも中央線を直下させて刺している点は、心にくい配慮だと心を打たれます。(津軽こぎんより)

三本の縞入りは、遠くにあつても、部落仲間の即として知らずことができたことでしょう。農家の女性によって自家用として刺された津軽こぎんは、模様は技法上の制約から、直線の幾何学文様に限られ、曲線は全くふくまれていないが、津軽こぎんは今や日本の代表的遺産である。

県指定文化財の「嘉瀬奴踊り」も三縞こぎんを着用したし、「金木荒馬」のさなぶり踊りも、三縞こぎんの姿である。

先人たちが、津軽の風土と生活の知恵から作りだしたこの貴重な遺産を我々は後世に伝える必要がある。

裏表紙は、ケラみの衰と薬せなグツである。ケラは肩より背のところに編んで作る衰で、雨露をしのぐためか、あるいは背せな当として、荷物などを背負うばあいに着る。薬グツは、薬で編んだ冬のクツであった。

木村 治 利

かたりべ第六集 目次

表紙 (三稿ごぎん)

(巻頭言) 人間性高揚 金木町長 大橋忠勝 (1)

嘉瀬地区石塔群 きのした清一 (4)

嘉瀬八幡宮寄進物石造明細 (沢田 薫・須崎正敏・秋元惣之進) (12)

誌上討論 嘉瀬モッチョ (42)

秋元 惣之進・木村治利・山中正津
木立久二・沢田 薫・原田万治

★特集★ 増田 千代吉の肖像

正義の光を築く増田千代吉氏 吉崎正光 (47)
農民運動の先駆者 原田万治 (53)
増田千代吉さんの思い出 小山内嘉一郎 (54)

(検査夜話) 特高警察の人々 土岐兼房 (57)

あだなの教え方 沢田 薫 (37)

嘉瀬と金木・反目二百年 秋元 惣之進 (38)

糠部・鹿角を行く 山中正津 (20)

津軽半島縦断踏査記 (2) 木村治利 (32)

身売り 原田万治 (64)

◇津軽の田面から消えたもの① (19) ◇津軽の田面から消えたもの② (36)

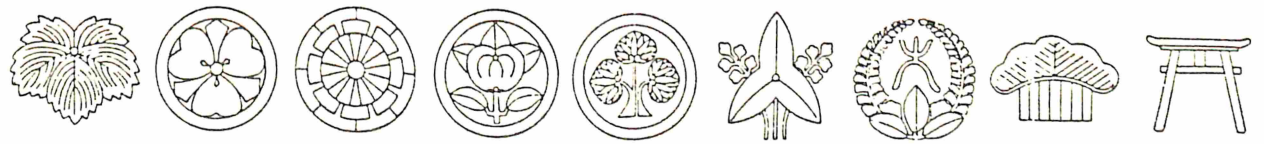
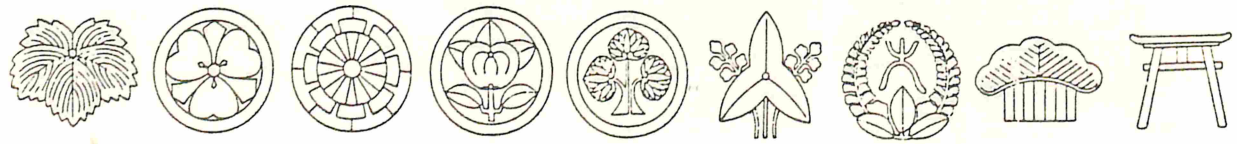
◇りんご畑から土器 (31) ◇酒喧嘩 (78)

◇嘉瀬話「煮ると焼く」 (41) ◇ふるさとのわらべ唄 (56)

〈特別寄稿〉 思い出るまま 成田勇司 (88)

柿本人麻呂の伝記 (下編) 久崎三千男 (79)

◎表紙解説 (90) ○あとかき (90)



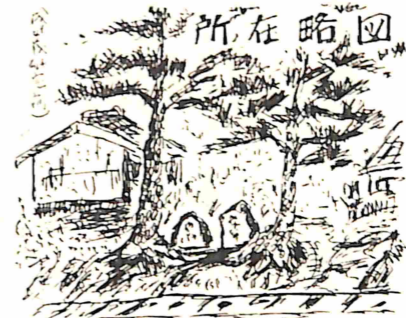
庶民の信仰にみる

嘉瀬地区石塔群

秋の日射しに二十三夜塔にふれると、温かみがあった。
ほのかな。ふるさとの温みが、祖先の温みが、そこにあった。

① 中柏木地内

成田義雄氏宅前
二基



全嘉瀬 ← 中柏木本道 → 全嘉瀬



左①の2 右①の1

右①の1
村中安全
帝釈天王
悪病退散

裏面 明治三十一年九月十三日

左①の2
諸餘怨敵
南無摩利支尊天
皆悉摧滅

裏面 明治二十三年三月十八日
村中安全

② 中柏木地内

七面宮境内
二基



全嘉瀬 ← 中柏木本道 → 全嘉瀬

②の1

②の2

山神像

参道
入口

大正四年
七面大妙神
九月十九日
成田万之助

堂敷内

右側面

中柏木村中

正面

左側面

大正八年十二月

②の2

山神

③ 中柏木地内

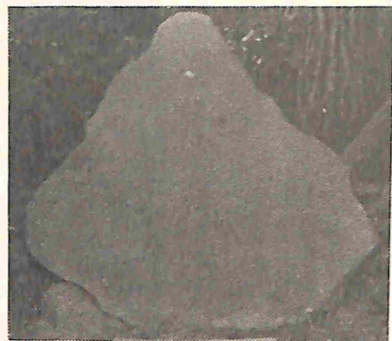
杉山悦子氏宅裏山
二群六基



全嘉瀬 ← 中柏木本道 → 全嘉瀬

前群 右③の1

明治三十二年
庚申塔
旧七月廿日



前群 右③の1



前群 中③の2 右③の1



前群 中③の2

前群 中③の2

昭和十一年
庚申塔
旧八月二十日

裏面氏名 原田薫次郎、原田門次郎、原田要之助、杉山金吉、原田藤之助、原田永太郎、原田慶助、原田万助、原田勇丈、杉山金四郎、原田多市、原田勇七、原田為之助、原田子之助、杉山甚作、原田万之助、杉山金助、原田留次郎、原田助市、原田紋太郎、原田栄、田中清太郎

前群 左③の3

昭和十一年
二十三夜塔
旧九月二十三日

裏面氏名 原田薫次郎、原田門次郎、原田要之助、杉山金吉、原田勘助、原田平太郎、原田藤之助、原田永太郎、原田慶助、原田万助、杉山金四郎、原田多市、原田与助、原田仁助、原田平作、原田留吉、原田為之助、原田子之助、杉山甚作、杉山金助、原田万之助、原田留次郎、小野三長、原田助一、原田紋太郎、原田栄、田中清太郎、



前群 左③の3

前面氏名 原田男次郎、原田定吉、原田善太郎、原田福太郎、原田兼藏、杉山万太郎、杉山弥十郎

後群 三基

⑤ 嘉瀬スキー場内

立山観音堂横 一基



正面 七面大天女

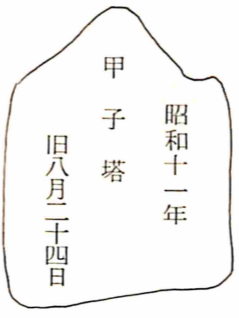
台座 昭和十六年旧六月十九日

本体塔設置年度不詳

台座正面記載氏名

俗名 泉 寅吉 行年八十五才

後群 右③の4



昭和十一年
甲子塔
旧八月二十四日



後群 右③の4

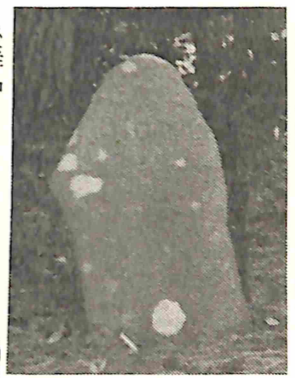


後群 左③の6

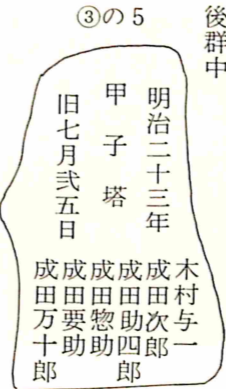
中③の5

右③の4

裏面氏名 成田萬之丈、成田萬之助、成田松太郎、成田一、成田富蔵、成田市太郎、成田光男、成田留吉、成田萬次郎、成田永作、木村武智雄、成田運次郎、成田権五郎、荒関ミヨ、成田□吉

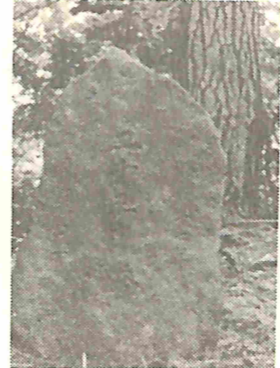


後群 中③の5



明治二十三年
甲子塔
旧七月十五日

木村与一
成田次郎
成田助四郎
成田惣助
成田万十郎



後群 左③の6

俗名 泉 くま 行年八十九才

泉仁太郎、泉勇作、土岐綱吉、土田勝馬、泉潤太郎

北郡嘉瀬村

浜田永作、鎌田君吉

台座右側面氏名

北郡喜良市村

岡田慶一、伊丸岡利八

五所川原町 松井武任

南郡浪岡町 岡田武夫

西郡柏村 小田川熊四郎

北郡長橋村 土岐喜久也

台座左側面氏名

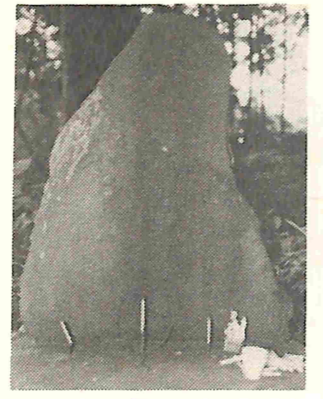
白川権五郎、原田耕造、笹森作太郎

青森市 浜田哲三、今勝次郎、鶴岡忠三、中野勝弘、高橋公、北村子之松

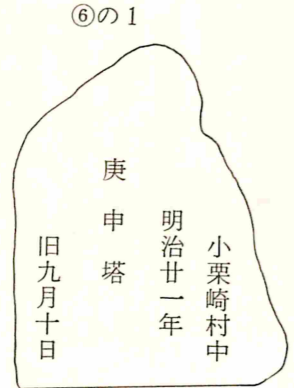
北郡金木町 小山内照磨

⑥ 小栗崎稻荷宮

境内 二基



⑥の1



小栗崎村中
明治廿一年
庚申塔
旧九月十日

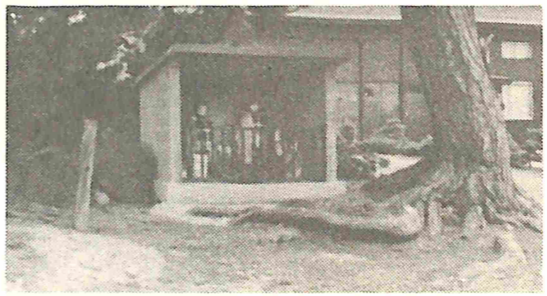
裏面記載なし。

裏面氏名 成田萬之丈、成田萬之助、成田富蔵、成田松太郎、成田一、成田市太郎、成田光男、成田留吉、成田萬次郎、成田運次郎、成田永作、木村武智雄

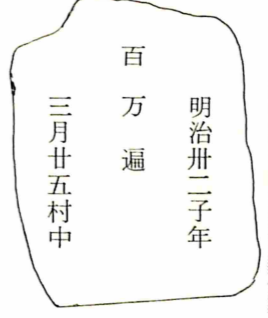
④ 中柏木地内

原田勇氏宅地内 二基

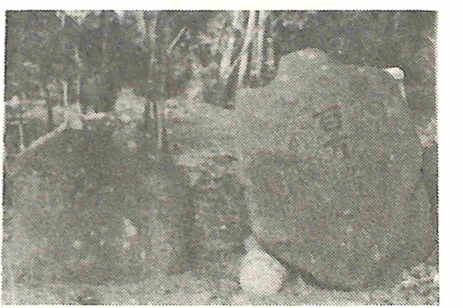
地蔵堂横



右④の1



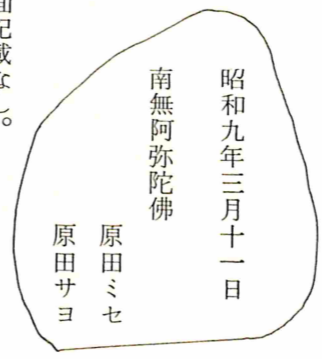
明治卅二年
百万遍
三月廿五村中



左④の2

右④の1

左④の2



昭和九年三月十一日
南無阿弥陀佛
原田ミセ
原田サヨ

裏面記載なし。

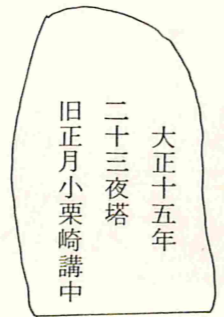
裏面記載なし。

⑦ 保食宮境内三基

通称馬頭観音



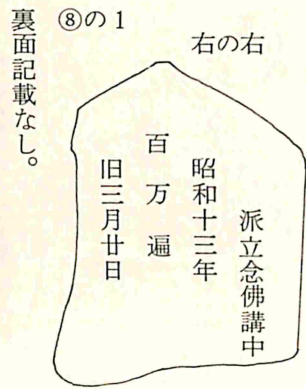
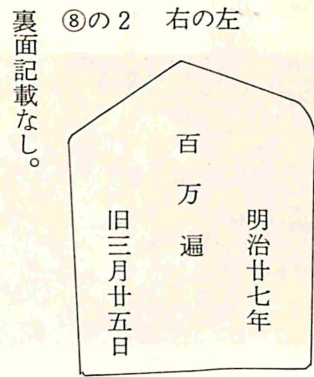
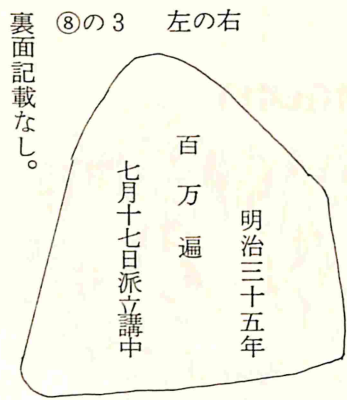
⑥の2



大正十五年
二十三夜塔
旧正月小栗崎講中

裏面記載なし。

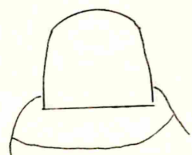




⑨ 嘉瀬上鍛冶町
磯崎宮境内

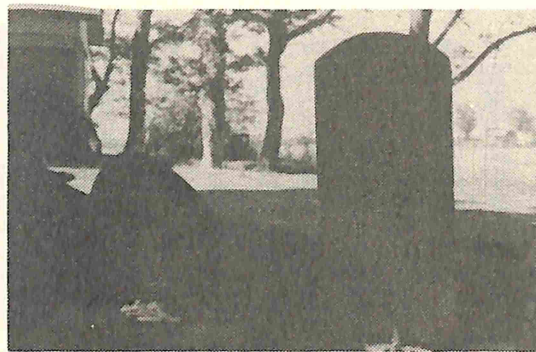


⑨の2 石神の
本体らしい。



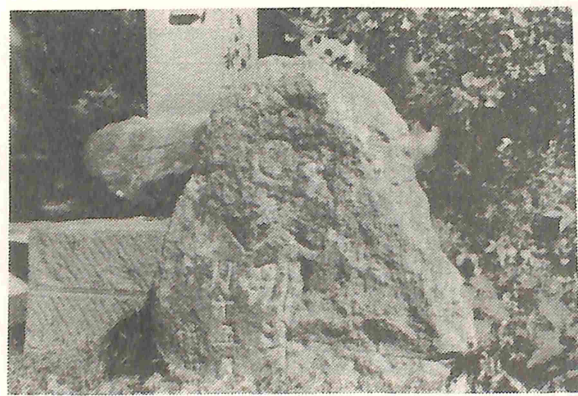
右側面 六月廿四日
裏面記載なし。
左に位置する石

⑨の1 右側面 安永几庚子天
天下泰平
大乘妙界 □ 廻国 □ □ 二世安
日月清明
鳴海善



⑨の2

⑨の1



⑩のその一



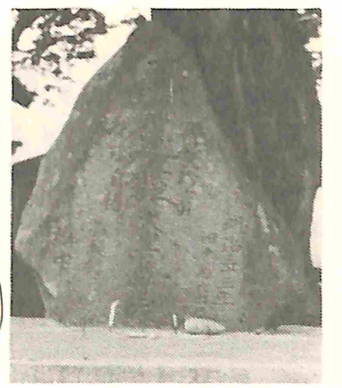
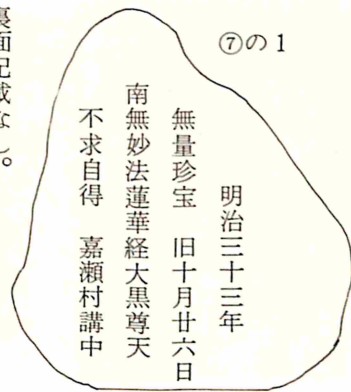
小田川=八幡宮橋

⑩ 嘉瀬八幡宮境内



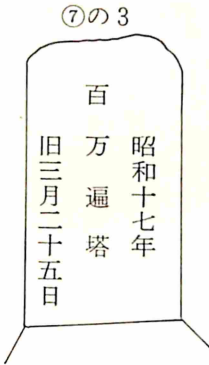
⑦の2

裏面記載なし。



⑦の1

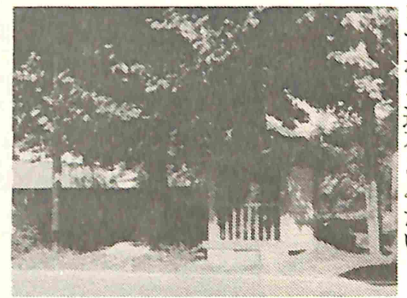
▲調査するに、正面、裏面に設置年代、記名等なし、風化甚だしく確証を得ることができない。



保食宮境内地藏堂左横



⑦の3



⑦の3全影 地藏堂左

但し、察するに、古代から中世にわたる東日流人の、石神信仰にまつわる遺石とみたい。



⑧の全影



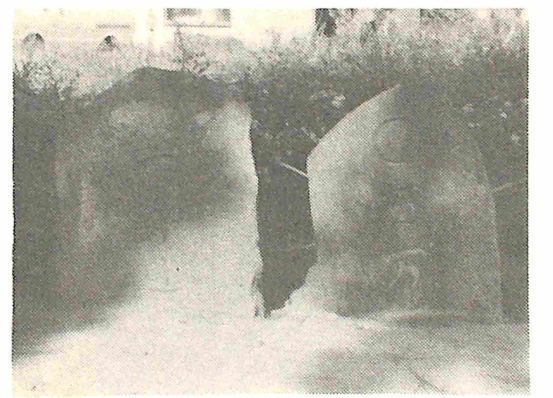
⑧ 嘉瀬昭和町内四基

- | | | |
|--------|-------|------|
| □ □ ハル | 杉山アグリ | 裏面記載 |
| 鳴海ナサ | 中村トメ | |
| 鳴海キヌ | 工藤ツル | |
| 齊藤イサ | 浜田マツ | |
| 榎引ナミ | 岩村イヨ | |
| 三上カヨ | 白川カシ | |
| 浜田マチヨ | 榎引ソヨ | |



⑧の4

⑧の3



⑧の2

⑧の1